

◎はなせ診療所そよ風だより N068

2016年5月 内科 吉澤泰介

先日某所で、別所、花背、広河原、久多4地区における医療の現状と展望の話を
する機会がありました。それに関連して政府の展望を一つ。

厚労省は、現在14万床ある療養型病床（急性期医療を必要とせず看取りのため
に入院する病床のこと）の削減を提唱しています。軽度の方は在宅で、重度の方は
病院で看る形を目指しているようです。

高橋先生の跡を継いで6年ほど経ちましたが、御高齢の患者さんと話をしていると、
今後自分がどうなるのか、なかなか具体的に想像するのは難しいのだろう、と
感じました。

最期を迎える場所は家か、それとも施設、病院なのか。大きく分ければその三つ
になるでしょう。あるアンケートでは自宅で元気なまま、ある日突然パタリとゆく
のが理想、と答えた方が多かったそうです。しかし実態として、家で亡くなる方の
7～8割は風呂場やトイレなどが多く、床の上とは中々いかないようです。

この花背という地域では、都会で最期を迎える方と比べ、残念ながら幾つかの壁
があります。自宅で最期を迎えるには、以下の4条件が必要となります。

- 1) 往診の医者
- 2) 訪問看護の看護師
- 3) 日常の介護をサポートする訪問介護
- 4) 家族など、日常生活をケアできる人

市原寮の開いた花友はなせは介護施設ですので、病院と同じような医療を提供する事は中々難しいです。従って、より専門的な医療的ケアを必要とされる方などはどうしても受け入れが難しいというのが現状です。それでも日々皆様から頂く暖かい言葉を励みして、今後とも頑張っていこうと思います。